

ベトナム*

国際動向・戦略分析グループ 研究主幹 横地 明宏

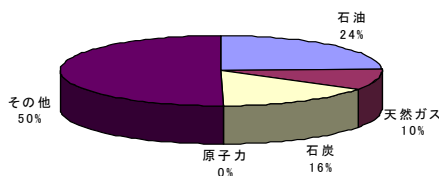
1. サマリー

1. エネルギー事情

ベトナムは、石油・天然ガス・石炭資源を豊富に保有している資源純輸出国であり、アジア地域では、第2位の原油輸出国となっている。1986年のドイモイ政策採用以降、国内石油開発部門に対する積極的な外国資本の導入が展開されており、1987年には原油輸出がスタートしたが、国内に製油所を保有しないため、生産された原油は輸出され、石油製品を輸入している。

- (1) 一次エネルギー総供給量： 5,130 万石油換算トン (2005 年)
- (2) 一人当たり一次エネルギー供給量：0.62 石油換算トン (2005 年)
- (3) エネルギー自給率：136%
- (4) エネルギー起源CO2排出量：8,036 万CO2トン (2005 年)
- (5) 一人当たりエネルギー起源CO2排出量：0.97CO2トン (2005 年)
- (6) エネルギー別可採年数：原油 24.3 年、天然ガス 57.1 年、石炭 4 年

一次エネルギー総供給構成 (2005 年)



(出所) IEA, 「Energy Balances of Non-OECD Countries 2004-2005」 2007 Edition.

2. エネルギー政策のポイント

(1) エネルギー政策担当機関

投資計画省 (Ministry of Planning and Investment) がエネルギー部門に対する外国投資に関する政策策定・実行を担当する。また、工業省 (Ministry of Industry) がエネルギー部門全般を管轄、石油・天然ガスに関わる国家発展戦略および中長期計画を策定し、ベトナム国営石油がその実行にあたる。

(2) 基本政策

国家収入の 25%をエネルギー部門に依存することから、国内生産原油の輸出は貴重な外貨獲得源であり、外国投資の導入による国内資源開発の強化に向けて投資環境の整備を図ることが重要な施策となっている。また、今後国内石油需要の堅調な伸びが予測される一方、石油製品輸入による外貨流出を低減すべく輸入量の削減に努めている。国内精製設備の整備が急務となっているにもかかわらず

*平成 19 年度に経済産業省資源エネルギー庁より受託して実施した受託研究の一部である。この度、経済産業省の許可を得て公表できることとなった。経済産業省関係者のご理解・ご協力に謝意を表すものである。

ならず、資金調達や立地問題などから遅れが生じていたが、漸く出資者が政府により承認された。なお、今後の石油ガス生産能力の拡大に関しては、PetroVietnam が 2002 年に発表した計画によると、同社は 2010 年までに石油・ガス生産を原油換算 3,000~3,200 万トンに引き上げるとのことである。内訳は国内原油が 1,600~1,800 万トン、海外原油 300 万トン、天然ガス 1,100~1,300 万トンである。また、外資参入状況は、2005 年 2 月時点で、約 20 社 (ExxonMobile, BP, Conoco, 出光, 新日石, Statoil 等) が上流開発に参入している。

(3) 最近の動向

2006 年 9 月、工業省と JICA (独立行政法人 国際協力機構) は、長期国家エネルギーマスタープランの策定に合意し、実施に移された。調査期間は、2006 年 11 月~2008 年 6 月までとなっている。同国では、効率的な国産エネルギーの開発、高品質低価格なエネルギーの供給、エネルギー安全保障の確保、エネルギー市場の創設、エネルギー開発への民活導入促進、遠隔地における再生可能エネルギーの活用、環境社会面への配慮等を盛り込んだ同国初の国家エネルギー政策を策定するべく準備を進めており、この政策を具現化する際に利用されるマスタープランとなる。

3. 日本とエネルギー分野における関係

日本はベトナムから原油を輸入している。2006 年の原油輸入量は 2005 年 (161.4 万 kl) 比 8.8% 増の 175.2 万 kl であった。また、日本の電力会社・重工業・商社等がベトナムに対し発電所の建設等のプロジェクトに参加している。

2. 主要エネルギー指標

(2005 年)

(1)	一次エネルギー供給量	51.30	石油換算百万トン
(2)	一人当たりの一次エネルギー供給	0.62	石油換算トン/人
(3)	GDP 当たりの一次エネルギー供給	1.15	石油換算トン/千ドル
(4)	エネルギー自給率	136	%
(5)	エネルギー起源CO ₂ 排出量	80.36	二酸化炭素百万トン
(6)	一人当たりエネルギー起源CO ₂ 排出量	0.97	二酸化炭素トン/人
(7)	エネルギー源別構成率		
	石炭	15.8	%
	石油	24.3	%
	ガス	9.6	%
	原子力	0.0	%
	水力	3.6	%
	再生可能エネルギー等	46.7	%
(8)	エネルギーの輸入依存度	-34.3	%
(9)	石油の輸入依存度 (石油製品)	-50.6	%
(10)	輸入原油の中東依存度 (2005 年)	0.0	%
(11)	原油輸入先 (2005 年)	第 1 位	インドネシア
		第 2 位	タイ
		第 3 位	コンゴ

(出所) : (1) ~ (4) 及び (7) ~ (9) は IEA 「Energy Balances of non-OECD Countries 2004-2005」 2007 Edition

(5) ~ (6) は IEA 「CO₂ Emissions from Fuel Combustion 1971-2005」 2007 Edition

(10) ~ (11) は Blackwell 「World Oil Trade : An Annual Analysis and Statistical Review of International Oil Movements」 2006